

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493600027		
法人名	特定非営利活動法人 なごみ		
事業所名	グループホーム ポラーノの杜		
所在地	宮城県仙台市本吉町後田113番地		
自己評価作成日	平成22年8月1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホーム「ポラーノの杜」は平成20年12月に開所しました。姉妹事業所は市内外の計4ホームに加えて7月にデイサービスが開所し、日頃から仲良く親密に交流を図っています。それによって利用者は毎日をより楽しく生活していますし、職員にとってもそれぞれが目標を持ち、スキルアップを図る高い意識と連帯感がある環境が実現しています。利用者・職員ともに互いへの思いやりを持ち、なじみの関係を築きながら日々を大切に過ごせるよう心掛けながら、こまやかで、なおかつ質の高い介護サービスの提供に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームの運営は特定非営利活動法人「なごみ」で「ポラーノの杜」は平成20年12月15日に開設されている。運営推進会議終了後に開催されたホーム主催のイベント「流しそうめん」に近所の人や隣の「ぼらん」の入居者、職員も参加し、にぎやかに開催された。近くの九条小学校の3・4年生が「車イス体験教室」に参加し、車イスで移動することのむづかしさを体験した。その際「ポラーノの杜」の職員が説明に当たるなどし、交流を図った。また食事をおいしく楽しく食べられるようにと食事前に口腔体操をしている。ケアが細やかで入居者の皆さん全員が明るく楽しく過ごしている様子をうかがうことが出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホームポラーノの杜)「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域生活の継続のため職員で話し合い作られた理念を玄関やネームプレートの裏面に明示し、さらに業務の前に唱和して共有することで常に入居者一人ひとりが安心して生活できる環境作りに取り組んでいる。	平成21年3月に職員全員で話し合って作ったものであり、日々のサービス提供場面で職員がケアに迷った時、理念の確認している。また状況の変化に応じて、1年に1回以上は理念を振り返り、職員全員で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際には地域住民の方々に対し気軽に参加していただけるようお誘いし、交流を図っている。また自治会に加入しており、地域の行事などへ積極的に参加して地域に溶け込む努力を続けている。	ホーム主催の夏祭り「流しそうめん」は地域の人達も参加し、にぎやかに開催された。近所の方がハーモニカの演奏に来てくれたり、九条小学校で行われた「車イス体験教室」に入居者や職員も参加して交流を図った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「なかよしぼらん」という子育てサロンを月2回開催し、幅広い年代の地域住民の方々との交流を通じて認知症に対する理解を深めて頂く取り組みに力を入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議議事録は職員全員が目を通し、要望への迅速な対応やケアの統一を図っている。	会議では避難訓練や新設予定のディサービスの報告があり、振興会長から地域でも避難訓練を予定しているのに参加して欲しい旨の話があった。会議は2ヶ月に1回開催され、包括支援センターの職員が出席している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当部署へは電話だけでなく、たびたび足を運んでいる。また保健福祉事務所の技師に来所を要請し、アドバイスを頂く等の連携がとれる関係作りをしている。	市からは地震や津波などの災害があったとき、安全確認に来て頂いている。「グループホームぼらん」の管理者だった方が包括支援センターの職員に採用されたのを機会に、相談に伺ったり、アドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0の手引きの配布や研修参加報告書を回覧し、さらには毎月開催する勉強会を通じて全職員が理解できるよう努めている。転倒の危険性がある方でも申し送りを充実させ情報を共有することで、拘束しないケアに努めている。	入居者一人ひとりの外出の傾向をつかんでおり、見守りや声掛けで日中は玄関に鍵をかけていない。一人で出掛けた時は一緒に散歩し、花を摘んで帰って来ている。近所の方には連絡をして頂くようお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項同様研修報告書等を回覧し、さらに勉強会やミーティングにて情報共有の機会を設け、職員の理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての勉強会を行っている。研修報告書を回覧すると共に、資料もファイルし、対応出来るように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事前に契約書と重要事項説明書をお渡ししており、熟読していただいた上で改めて丁寧な説明を行い、より理解していただけるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中で利用者がどのような事を考えているか耳を傾け、目を配り、可能な限り取り入れるようにしている。ショートミーティングで利用者の声は職員間で共有し、日々ケアに取り込んでいる。	家族の来訪時に意見、要望を聞いている。親戚が面会に来た時に頂いたお金の使い道について入居者から相談があり、対応している。運営推進会議、市の窓口、第三者などにも意見を表わせる場があることを話している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体ミーティングを行い、代表者も含め意見交換を行い、反映するよう努めている。また、管理者は常に職員の身近な立場で、日常的に意見交換できる関係を築いている。	職員の意見が取り上げられ、足の不自由な入居者の居室に手すりを設置したり、居室に温・湿度計を設置し、管理できるようにした。また受験資格のある職員には資格試験の受験を勧め、受験料は法人が負担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年功序列にこだわらず、能力のある職員を積極的に役職へ登用することで、意欲向上を図っている。また小さなことでも職員達の努力は常に正当評価すると共に併せて敬意や謝意を表している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員各人に目を配り、適正に合った研修に参加を促し、キャリア形成・キャリアアップについての啓発を継続的に行っている。ミーティングでは研修報告を行い、職員の知識吸収の一助として役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は加盟している宮城GH連絡協議会等が主催の研修への参加による管理者及び職員独自の人脈作りを推奨し、またそのことが自施設と自分自身を省みる好機であることを繰り返し説いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時、管理者・計画作成担当者が本人・家族とお話する機会を設け、利用者の思いに耳を傾け、可能な限り実現できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がどのようなケアを望んでいるのか、何か不安な事はないか伺い、もしあった場合は十分に時間をかけて懇切丁寧に説明・対応して良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床時の相談では、早急に何かしらのサービス利用が必要な方は、包括支援センターや他事業所への紹介や説明を行うなど情報提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、残存機能を活かしながらい入居者様と寄り添う姿勢を大切に支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行い、通院時には電話で報告をしている。電話や手紙等で家族との関係が途絶えないように努めている。誕生日には家族の予定も考慮しながら参加を働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年馴染みの理髪店に行ったり、来訪して頂くことで、従前の関係が続いていくよう支援に努めている。	馴染みの友人に年賀状や手紙を書いたり、電話での話ができるように支援している。また隣の「グループホームぼらん」や「ケアプランセンターぼらん」に友人がいてお茶を飲みに行ったり、来て頂いたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中でなじみの関係が構築されおり、お互いを支えあう関係が自然とできている。職員は利用者同士が円滑に関わり合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移っても、そちらで顔を合わせた際には近況を伺ったり、家族への情報提供等に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日々の関わりの中で、言葉や表情から希望等をくみ取り、一人ひとりの思いを尊重・実現できるように毎日のミーティングを通じて検討・実行している。	入居者の昔の生活や家族から聞いたことを参考にして本人の思いや希望を把握し、支援している。自宅に行って服などを家族に頂いてきたり、欲しいものがあるときは一緒に買い物にも行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からのお話を記録に残し職員間で共有している。また、積極的に情報収集に努め、より良い生活を送っていただけるよう活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々の生活の中での記録を共有し申し送りをしている。月1回の全体ミーティングを通じて情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	当事業所では、担当制を採り入れることで入居者の思いや希望等をよく聴き取り、また、家族の思いや職員の気付きも介護計画に採り入れながら支援に努めている。	本人や家族の思い、担当職員の意見、医師からの話などを参考にして介護計画を作成している。月に1度、状況、効果などの評価に応じて計画の見直しをしているが、定期的な見直しは1年に一回となっている。	状況は日々変化しており現状と介護計画がかみ合っていない状況がおきがちです。本人・家族の要望や変化に応じて1年に2回以上の見直しを行い同意を得るようにお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を詳細に記入することによって職員間で情報を共有し、ケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態・状況に合わせて医師や看護師、家族に報告・相談しながら、最善のサービスを提供できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・振興会長や地域の方々との交流を大切にし、ホームでの行事にはボランティアの協力を頂きながら、積極的な交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ての利用者及び家族の希望のかかりつけ医に定期的に受診し指示を仰いでいる。家族の都合が悪い時には職員が付き添う。毎日のバイタルチェック表の他、日常生活記録を持参して状況を報告している。	家族が同行し、受診する場合は日頃のホームでの生活状況が医療機関に伝わるようにバイタルチェック表、前回の受診状況、生活記録などを持っていただき、受診結果や助言などを記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の様子との違いに早期に気づく観察力を勉強会等で養っており、異常時は看護師への迅速な連絡やかかりつけ医との連携がスムーズに行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された時は情報を提供し、可能な限りお見舞いに行き状況把握する。家族と医療機関のやりとりについて情報交換に努め、退院に備えている。退院時はサマリーを頂いて今後の介護の参考にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族がどのように最後を迎えたいか、出来るだけ早い時期から情報を得るようにしている。看取りの指針を策定し職員全員で方針の共有を図っている。	「看取りの指針」が作成されており、重度化や終末期を迎えた場合の対応について、早い段階で本人や家族、かかりつけ医と話し合い、方針の統一を図っている。また状況の変化に応じて話し合いをし、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を計画し、全職員が受講できるように努めている。作成したマニュアルを勉強会で学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報訓練を行い避難口の確認や避難経路の整備を行っている。運営推進会議の際には地域との協力体制をお願いしている。勉強会にて避難訓練の復習をしている。	防災責任者は避難通路の確保、スプリンクラーや自動通報装置、火災報知器などの定期点検に立ち会って確認している。また避難訓練等(夜間想定)を年2回実施し、地域住民の参加も呼びかけているがむづかしい。	職員だけの避難誘導には限界があります。運営推進会議を活用し、振興会長にお願いするなどし、地域の方の協力を得られるようお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に傾聴の姿勢を大切にしている。呼びかけはその方に合わせた声かけを行うことがある。言葉遣いを丁寧に言うように心がけている。	入居者への呼びかけは「さん」付けをしている。また入居者が他の入居者のことを心配して「どうしたの」とか声を掛けてくることもあるが、誇りやプライドを傷つけないように言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者担当制を採り、コミュニケーションが密に行えるようにしている。遠慮がちな生活にならないよう話しやすい雰囲気作りに務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の希望を必ず確認した上で当日のショートミーティングにて予定を組み入れるなど希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容・整髪も職員が見守りや一部介助で行えるよう支援している。行きつけの理容室に通う事も楽しみの一つになっている。また本人の使い慣れた化粧品を渡せるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備など出来る事を分担して一緒に行っている。日課として自ら手伝って下さる方も多い。そのほか食事前の口腔体操を行い食欲が進むように支援している。	食事のメニューは栄養士や調理士の資格を持つ職員に助言を頂いている。毎日、食事前には口腔体操をしたり、入居者と職員が同じ食卓を囲み同じものを食べるなど食事をおいしく楽しいものになるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、嗜好チェックを行うことで摂取状況に応じた調理の提供をしている。毎月体重測定を行い推移に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助や誘導の必要な方に対しては状態に合わせて毎食後行っているが、自立されている方の口腔ケアは声かけと見守りで対応している。夕食後は義歯を預かり殺菌洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入を確実にし、利用者一人一人のパターンを把握している。排泄の声がけは他利用者等の視線を意識しながらさりげなく行っている。	入居当時紙パンツを利用していた方がホームに来てから紙パンツが取れるなど適切な個別指導を行い、一人ひとりの力を活かし自立排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者に対しては、個々に起床後の冷水・牛乳の提供、あるいは腹部マッサージや計画的な水分摂取、散歩や体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日のバイタル測定値を確認し本人の希望を確認しながら支援している。	一人ひとりの希望を聞いて個別に合った入浴が毎日出来るように支援している。入浴を拒む人には時間を置いて声掛けするなどしている。拒む理由なども記録しておき今後の参考にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態観察を常に行い、夜間不眠の翌日中や外出から戻られた際は、無理に活動や入浴を促すことなく、休息の時間がとれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書を冊子にまとめて全員が閲覧できるようにしている。各入居者の薬ケースにも飲み方を分かり易く記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の日課、行事参加時も役割を持っていただき、楽しみながら、張り合いのある生活を送って頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿えるよう外出や散歩の対応をしている。計画を立てて全員で外出したりする機会を多く設けている。利用者の孫様や職員の子を交えて出かけることもある。	天気の良い日はホームの周りを散歩したり、近くの薬局へ買い物やテーマパークなどにドライブをしている。またお盆のお墓参りや法事などの外出支援には柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買い物は本人に選んで頂いて購入している。主に金銭管理、出納帳は職員管理で行っているが、自己管理をご希望の方に対しては、家族了承のもと、所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	離れて暮らす家族と電話で話す際には、子機を使用しスピーカー音量にすることで気軽にコミュニケーションが図れるように支援している。実際に手紙やハガキを交換している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作りの手芸、塗り絵の作品をホールに展示している。季節の作品は職員が案を出し利用者と一緒に製作している。日常生活の写真を飾っている。	ホールの壁には入居者3人で作った刺し子のコースターや手作りの大きなカレンダーが飾られている。換気は朝の7時からと昼寝が終わってから夕方まで行われ、臭気や空気の上よみがなく居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは席が決まっており、自分の居場所が確保されている。それ以外にソファー、和室、ウッドデッキ、交流ホール等の思い思いの場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前の苗字の表札は、プライバシーに配慮しながらも利用者に分かり易いよう高さ等調節している。馴染みの家具や仏壇を持ち込んで頂き本人が居心地良い環境で過ごせるように工夫している。	入居時に馴染みの物を持って来るように家族にお願いしている。居室には自宅から持ってきた机や筆筒、壁には家族の写真が貼られている。また適温(23℃)適湿(50%)管理が行われ居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレに手すり、浴室には手すり、滑り止めマットを設置している。食堂の椅子には各人に合った形、高さを選び、希望や本人に合った座布団を使用している。椅子には手作りの杖入れを取り付けている。居室内も本人の状態に合わせて手すりを設置した。		